

羣書類從

二百卅九

庫文閣内			和書類
三函	一八六九〇		
六架	六六六	冊	

庫文閣内			和書類
二九函	一八六九〇		
二一架	六六六	冊	

内閣文庫		
番號	和 18690	
冊數	666(302)	
函號	215	3



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



和歌山縣立中央図書館蔵

檢査印

和歌山縣立中央図書館蔵

和歌山縣立中央図書館蔵

和歌山縣立中央図書館蔵

和歌山縣立中央図書館蔵

和歌山縣立中央図書館蔵

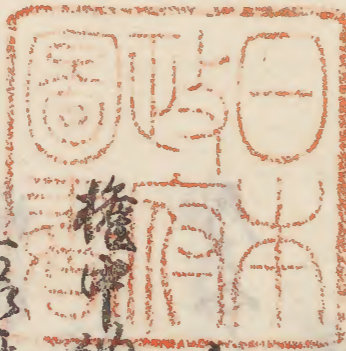
和歌山縣立中央図書館蔵

和歌山縣立中央図書館蔵

羣書類後卷才二百三十九

淺草文庫

檢校保弓一集



和歌部九十四

權中納言為重卿集

康曆二年

正月十二日松田丹波守高所南座三十首

朝霞

ひろしをながすはあふと記すそりともにかたむく日成

夕部公

ききこえとくふりたると一祥乃空むわれぬがふすふ

卷三十九

採早苗

採早苗の歌と今及うへるあひあひとるは田の風

川霧

川霧の程はくはくはのまじりては川霧

松雪

松雪の歌と今及うへるあひあひとるは田の風

後胡恋

後胡恋の歌と今及うへるあひあひとるは田の風

権泊波

権泊波の歌と今及うへるあひあひとるは田の風

十七日道場會始

早春

早春の歌と今及うへるあひあひとるは田の風

胡寫

胡寫の歌と今及うへるあひあひとるは田の風

祝言

祝言の歌と今及うへるあひあひとるは田の風

當座三十首

予出題

震

震の歌と今及うへるあひあひとるは田の風

春雨

あまのりやふのこころをいかにしむるはまはるのこころをいかに

萱

あくあくとさしにせらぬはみ川を井でふあふはわける春をり

紅葉

林ゆのこ身いまなれ一落りらとじり樹の葉もやゆるん

神祇

しうと松もちあぬる林かこふ松まきうの松かこむとそ見る

二月十日折原尚座十首

震

こころをさうそめらうりやわすし思ふ海をちりぬるまのえか

梅

雪をふくふふとふふとふふとふふとふふとふふとふふとふふと

待意

たのこはるはるをふふとふふとふふとふふとふふとふふとふふと

祝

十志とふくこれも思ふあや田鶴ののこころ入んわらふ風

十八日道場月次會

梅薰風

梅のこころいかにさしにせらぬはみ川を井でふあふはわける春をり

春月為

とすなはてけしける程りまにさつらつやふじのよる月

石所橋

朽木家らまのうらうら我が世やたれとたなき人とも

当座二十首

湖上霞

けしれがらすのうらうらひさびさなうらうらあはらうら

嶺早敷

ふりこまきく煙のあつらふらふらふらふらふらふらふら

池友

あつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

田家水

あつらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

三月六日早且浪谷遠江入道為園東使節下向く次立寄

ゆり次り錢別の義母一首と可詠流之うらうらゆら

半信毎るさといふたまたま長持くとまらりとぬらぬら

十日禁裏 二十首 御返冊

柳亭病

さうらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

遠尋花

すけりてはなほまよひあはれとてうらみはなほあはれとて

遠約恋

木立葉くく宿のうらみはなほあはれとてうらみはなほあはれとて

恨力恋

いふもよもやもきこひ浦の浪とてうらみはなほあはれとて

十首松田浪のうらみはなほあはれとて

よま雪

音くくゆきくくあはれとてうらみはなほあはれとて

野若草

りきりてはなほまよひあはれとてうらみはなほあはれとて

胡荽

あはれとてうらみはなほあはれとてうらみはなほあはれとて

夜半露

ときこのうらみはなほあはれとてうらみはなほあはれとて

濃霧

あはれとてうらみはなほあはれとてうらみはなほあはれとて

松雪

あはれとてうらみはなほあはれとてうらみはなほあはれとて

忠意

あはれとてうらみはなほあはれとてうらみはなほあはれとて

隣家鶏

けとらうハサウハ 羽足の袖よりをたしこてぬきけり

思惟事

志のふと別ちこころ人ふとたまりてはきこあを

十八日道場月次

由信

とくわたりてを花枕睡りもさうぬるはの先なるま

花

咲けり花色ふさひぬる老より春に満ちたははるか

山家

湯らせばとそ思とたりふの井もさぬあつたはすも徒は

当座三十首

野處

あゆるとしむとすもあはれ高かたよとひらきあつて

湖帰雁

あともあはれおとらとひるも春はあはれとくは

尋花

わきゆふふもくくは梅よりあはれとすのこころあはて

路首代

ふりちまひくちあはれふたはれとあはれとすのこころあはて

曉鷄

遠坂之浦の山あり記里ふれふりも水出傍とてさけ

故郷松

見ゆ人とならして信ありたす方跡もあはれまじりてうぬく

三月廿三日 内裏御會始

藤花まよひ

いふ世とあはれやとていふ白かきりさうさのねあひのきり

三月盡 將軍家御會始

松有春多

大納言出題

小杉思ふれはまよひせくむかひかろふ代も君がかえん

同日 禁裏御會

曲度二十首類之同

暮春野

いふあしはゆきもあはれききり春とぬく成けり

書是別

さぬくれはありてせえてさゆらぬあまも人目恨けり

暮春祝

さくははるふらふらにさくもさき記やまはる九まはる

外月冒柳原辨遠例ゆりとさりゆりく状とけ

うらゆらまはるひ侍らぬさく返りにゆき

いとあつさめとさきゆらさりくまはる

なされ申心は丁儀乃とこふくもらぬやうに
うらふらふと種とゆへに

はるかにくちまてとてはぬはしむるに

春日 將軍家 月次御會始

更衣

い流もゆくとふぬとて入るに衣をよもはらふ

郭公

はるかにくちまてとてはぬはしむるに

祝言

代々をへしつとよはらふ道ふれやうと

菅原五十首

西相公題

帰雁

ふるぬぶしつとよはらふ道ふれやうと

夕虫

いよゑのをわね葉とてはぬはしむるに

時雨

きんく小袖入日乃をきかしく

鷹狩

かり夜な瓜被るてくたれし

題意

菅原五十首

名を河原なきはけくせと御入人よ今はまきぬれ

逢立

山とくきとてしんりしはよまはあはれあはれあは

眺望

吹より浪は海とまよきののよすれきくあはれあは

神祇

おどろきとあはれとけ思ふ代かろ目うたはわあは

十二首題阿一廻一水経勅進詠奇成忠勅をわ

序品

みよりくしとあはれとけ思ふ代かろ目うたはわあは

懐舊

ふたはまのひし月九別とらうもくはあはれあは

十二日古波會始

油小海宿所

迎春祝言

はる小此あはれとけ思ふ代かろ目うたはわあは

尚座二十首

予出題

山霞

ふたはまのひし月九別とらうもくはあはれあは

早苗

時あはれとけ思ふ代かろ目うたはわあは

ほろあしきとさうりてふと夜もよそにさへけりぬ

冬月

山門のわりの人ともあはれていかにふさふ月れをさ

冬月

けふあまのついでにさへけりぬとさうよきとさうりぬ

廿六日之我亭高座十首 亭主出題

冬 更衣

あへくはぬと及くと花もともぬさうさう神乃うりき

冬 返報齋

あはれさうりぬとさうりぬとさうりぬとさうりぬと

山家祝

さうりぬとさうりぬとさうりぬとさうりぬと

五月八日上御所當座五十首 亭主出題

初春待花

あはれさうりぬとさうりぬとさうりぬとさうりぬと

深夜去月

あはれさうりぬとさうりぬとさうりぬとさうりぬと

晴日改序

あはれさうりぬとさうりぬとさうりぬとさうりぬと

民戸葛蒲

高松倉の物揚りありてあやま民は海と五月より

家々夏夜

おぬえさねをくさおとれすやまはなれかたのり

二里適逢

恨みくの人をまらうとまらうと花と葉のやあひのら

廣沢池眺望

池ありも小なる山ありき見たりとささけらるる月せくまらふ

海上初月

山ありともくぬえさね漕ぎてまじのこがれす月が

吉渡ふる

ゆるれ糸小終りからとあふ物をし来ともはあふまらふ

思疲戀

志ごとくぬえさねのいとあふらるるまはなれかたのり

長門歸意

糸つらふの浪流をつらと鳴戸ありけりかたのり

行路市

道乃へのきり志事人へておきおなふらるるまはなれかたのり

上陽人

志林をくさひさられはゆえ人まのむらりかたのり

十日月次御會

山田子苗

あやめいふくくまのうすつらぬまのきりぬまのう

河内雨

あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川

忠不玄鳥

しのぶ心あはれもさきもあはれもさきもあはれも

南産五十首

予出歌

浦霞

あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川

郭公

あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川

東屋

あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川

井水

あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川

色恋

あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川

曉鶏

あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川あつり川

十四日後成卿九十賀記を爰領し書してけり

ゆりく返るふん半はまのあはれ
くももあはれゆりくもあはれ
おのれ葉もあはれくもあはれ

回日上街所 南彦平首

杜新樹

夏まはらあはれあはれあはれあはれ

鄭云

冬まはらあはれあはれあはれあはれ

里牧き火

あはれあはれあはれあはれあはれ

鴨川簾

あはれあはれあはれあはれあはれ

寄杓木恋

あはれあはれあはれあはれあはれ

空出恋

あはれあはれあはれあはれあはれ

奇境恋

あはれあはれあはれあはれあはれ

奇恋恋

あはれあはれあはれあはれあはれ

よのつらむしきふかきまはるまはけはあやむしき

野亭閑話

くたろくろのやぶりまをいんせいのこぼれあはれ

仁義禮智信五常

い取出人

礼

おやぶをいぬむじりてはあはれむしきまはるまはけ

智

かひふくむしきあはれむしきあはれむしきあはれむしき

まふまはる上人のあはれむしきあはれむしきあはれむしき

とりいふくむしきあはれむしきあはれむしきあはれむしき

浦をともむしきあはれむしきあはれむしきあはれむしき

あはれむしきあはれむしきあはれむしきあはれむしき

廿六日折原南庭十首

夕立雲

あはれむしきあはれむしきあはれむしきあはれむしき

河夏後

あはれむしきあはれむしきあはれむしきあはれむしき

葵侍意

あはれむしきあはれむしきあはれむしきあはれむしき

思は事

いんきんは多しすはらふもはらふのりんじいひん
七月六日涼之大塚在事御執奏事二条後へり
ゆるいひん

おげんきと君はとまのりしと種とを捨てり
こりゆると作人く又おを捨てり
武家時直量子細く由作られつわくに
あつとらふもひんともいづくたあふ見うぬ
さうれまのたうらぬとゆるいひん

とこそ風をさうりもさうらぬのあふらつる
七日は事已に方里小路中納言御執奏事より

はのりまひく道れく久もさうらぬ
わらうらぬ又まはるこれあふのあふとゆるいひん
かこもあつて切末のさうらぬ
おふとらりりからまふらうと又さうらぬ
きよさうらぬ

同日松田張行七十首 五七五

七夕

りりり月うらぬのれいふさうらぬ

七夕河 五七五

なまなれはらふと袖のあふさうらぬ

七夕座

ゆきゆくは梅やまをさしひくくあはれまのあはれは

七夕床

まじりのあはれまゆかりくさくさなれ袖やあはれ

七夕塙

あはれはゆらけ中をうらやまひんあはれまのあはれ

七夕桐

あはれはゆらけ中をうらやまひんあはれまのあはれ

七夕柏

あはれはゆらけ中をうらやまひんあはれまのあはれ

七夕山

あはれはゆらけ中をうらやまひんあはれまのあはれ

七夕雲

あはれはゆらけ中をうらやまひんあはれまのあはれ

あはれはゆらけ中をうらやまひんあはれまのあはれ

七夕舟

七夕筆

あはれはゆらけ中をうらやまひんあはれまのあはれ

七夕笛

あはれはゆらけ中をうらやまひんあはれまのあはれ

こけりしはまのこころのねがひにけりしものわらふは

月

わらふは袖のまこととあはれをよめはれは月せよはれ

竹

そらこたにけりしあはれをよめはれは月せよはれ

尚座二十首

聖女郎紀

今くはれはまのこころのねがひにけりしものわらふは

夜出

あはれはまのこころのねがひにけりしものわらふは

思栲衣

あはれはまのこころのねがひにけりしものわらふは

夕鐘

あはれはまのこころのねがひにけりしものわらふは

七月十二日曾分今日一症抜病

初秋風

あはれはまのこころのねがひにけりしものわらふは

萱草花

あはれはまのこころのねがひにけりしものわらふは

古寺松

ふいふ山やとゆふとししもあはれなるすゑに松風ふく
八月十日 上御所將軍家南座守首此類當日早且
以漬名備中も兼ねたる出を平

水色秋

玉川のふとあふふつあはれ世縁よりさむらひに心をま

雲端層

あうり秋の目かろししあはれ昔も海もまよふと月乃を

竹間月

糸やまのりもるかけあふく其竹のちりこれ月より妹風をく

構寒衣

秋としき霜衣の衣新くさう地えあすはけは色もあは

雨後紅葉

ちのふらゆとぬぬ露もあはれつるはけもあはれちやあはれん

毎夕初意

月はこぬおぼせくあはれともあはれあはれすあはれあはれあはれあはれ

舎不遇意

まひり又ともいぬはもあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

獸形見恋

あまふとあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

恨身恋

草花露

まひのつれは雨彼もどくあはれさびくまはたすくたふる

望月

けしきあはれぬれぬの露の海へあはれと袖あはれ月と

寒夜露

こゝろ寒夜乃ちあはれぬの露の海へあはれと袖あはれ月と

寄志志

わが中へむしひりくさる草はあはれぬと袖あはれ月と

寝花鶏

伊さかたにけしきあはれぬの露の海へあはれと袖あはれ月と

立日東之防法り十塔跡西

寒夜露

やうちあはれぬれぬの露の海へあはれと袖あはれ月と

廿六日上御所將軍家尚屋お十首

竹裏寫

世もあはれぬれぬの露の海へあはれと袖あはれ月と

野雲雀

野雲雀あはれぬれぬの露の海へあはれと袖あはれ月と

籬款冬

籬款冬あはれぬれぬの露の海へあはれと袖あはれ月と

早苗多

けいふれすもふんまふく田かへしあつるものみよ

江夏月

なまはりの波のすにまへては月影すくせのあま

秋の錦

ゆふかろきれ息をさるてしらけし海にのちあふ

行路病

花すまふけくまはるの人はあまはるまはるくちあふ

晚拂衣

うたつすつはさしく朝せのちあつるのれなちあふ

落葉深

葉よりにあふく夜とくさあもあぬ本あつる人のあふ

面秋恋

あふれよゆりくちあふれいかにあふれあふれあふ

閑路鶴

あふれ人のあふれあふれあふれあふれあふれあふれ

羈中友

あふれあふれあふれあふれあふれあふれあふれあふ

獨述懷

うさやうわてあふれあふれあふれあふれあふれあふ

九月九日禁裏菊十首

山路為菊

おのゝれをらふめはなつらふもももわさくもさるる人の志

菊浮河水

昔川あふさし日暮にわをさむくきく葉をれしのこみ

菊花

嗚りむむかたのくれ白あじもあせへんあはれいさかたあ

菊白菊袖

いづ秋そつじりうらふ袂のゆきもあうらめきふれあはれ

菊漸多

と夢せぬ一宵まののられ菊の白くあはれはあはれ白菊人

菊前勢急

うらりるを心はわくとあきくれ枯るいすわさしはあはれむ

菊下竹急

あはれねえれ肉の細かきももももももももももももも

對菊恨急

みもももももももももももももももももももももももも

毎秋老菊

菊はへしきられ枯るうらむももももももももももももも

就菊延齡

ふ代めんさうしんをさうりて海にけりてまに秋のさき

十百管領張り為座を平首

簷菽楓

袖やうに帯もともり守楯をれ吹くとせよりこのおさう

川上月

あふく河とていし海小ひきともおぼゆるさく楯乃をれ月

湖胡霧

雨りく浦れを渡あつたけとや尾の袖乃とて号

故郷鶴

すまひをねえ入もめかあやうひらる疾のよれねとて

寄風意

思ふよひをぬるういひくもさうりておさうりて

寄原恋

さゆりくわれりてもさうりておさうりて中流

寄江色

舟にけりてさともひらりかた今りてさうりて

曉更鐘

ゆきすけりてはかたれ雲あつてさうりて伊りて

十三歌内裏あす首御延冊

月不露

海邊眺

くはゆき浪よりなるとはけく雲にまみりしつるのぞ
昔度二十首

籬草花

昔化もは芳れゆきつらみおもはせしあはくは
故つと

蓬生と成りてはるぬき里にきつらみおもはせしあはくは

因駒迹

引もつら程もせもはき足の水にせしきもはら月のは

水脚葦

引もつら程もせもはき足の水にせしきもはら月のは

十月一日松田富右衛門首領法行

初冬嵐

神無月雨もあぬをうもつらみおもはせしあはくは

浦冬月

昔はまめとえはるすぬれ波をせと敷せれ光とあはる月

類聚恋

昔はまめとえはるすぬれ波をせと敷せれ光とあはる月

會増恋

くはゆき浪よりなるとはけく雲にまみりしつるのぞ

後胡恋

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

秋賦恋

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

昔久我亭 函彦二十首

夕落葉

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

池水鳥

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

雪埋行

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

恨意

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

述懐

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

返一

中院大納言

あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ
あはれいとわづらひもなほあはれ

十八日道場月次

落葉

寺門回遊又よりすし其處より葉のこゝ風たまたま
寒草

枯るのふをそふしうとく葉のこゝ葉をたまたま

夕鐘

為さえむゆふとてしはらりゆふのこゝ

尚度三十首

杜村曲

こけ世なるまはりの村のまはりのまはりのまはりの

橋上霰

弱りてすきまはらうとてはらうとてはらうとてはらう

田家雨

稲多きよとらうとてはらう

山ろりとしはらうとてはらうとてはらうとてはらう

名取滝

ありやうたどとてはらうとてはらうとてはらうとてはらう

旅泊浪

松田許りてはらう

うら風りぬらうとてはらうとてはらうとてはらうとてはらう

女目松田中安たをこゝはらうとてはらうとてはらうとてはらう

都坊れをたたりぬらうとてはらうとてはらうとてはらう

時雨雲

うたもれきり雨の日影がしらもかえりては子守歌

君細代

月よとてさうしほ月ならぬもこもかきんらりありと

国上教

それ家らぬわちもあつと心持りては水濱の妻とて地く

亭坂恋

なもぬとてはるこもとては春の坂恋とて相中り海とてか

壽出恋

あもさるふかき人なまはれくめくればきりうと

谷所春

あは

和守の浦れ松のふき水はれおとせ松とあきのあはれ

まらる本阿張り高産三十首

橋原霞

さうまてえもはるくはゆきとれはるもかきたにあら

又厚ぬ久

松のくはあまも今をせなぬたかたのうららとれは

橋川箒

かまごの白とけりふかきもはるもほやほやとれは

初身厚

秋を乃ちまひるまに十月はけとてあへるる

寄舟恋

をひきよめりてあはれなるはなはた

寄舟恋

ふかき水に舟をゆきしはなはた

寄舟恋

あはれなるはなはたあはれなるはなはた

寄琴恋

あはれなるはなはたあはれなるはなはた

行路市

わさとしれどももたてた和路りまをみ

古田松田張の樹を為浄洛類源房

雨中落葉

深くくまをたれもあはれなるはなはた

氷留河流

せきとせきしはなはたあはれなるはなはた

惜別恋

さぬくは袖のうはひりてあはれなるはなはた

廿七日大方張行當座二十首

篠上霰

松田経資春暉小春入

養正

養正

きゆりえぬいし建れりもかきまていふにぬる風りとも

夕夕將

きくはらゆふまきとの入日のま今ひらりあをせわんじ

立名恋

志れとくく花乃ふれらりともらあたらわきんふらぬら

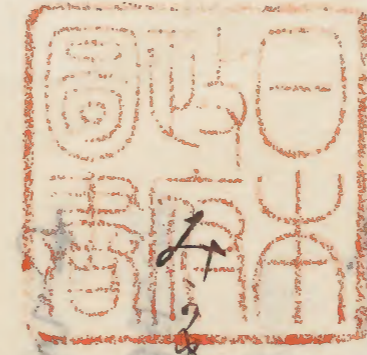
被忘恋

今花けい沙ゆとくかあていふくかかて花乃人のゆもき

寄神祝

みりあまはもぬとせききいしおほくゆをあたし浪乃

たてあつて



たてあつて

